

事後評価報告書(日ニュージーランド研究交流)

1. 研究課題名:「機能性食品素材としての海産脂質の有用性」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:東京海洋大学海洋科学技術研究科 客員教授 矢澤 一良

2-2. ニュージーランド側研究代表者:産業研究所 生物活性総合技術開発部

上席研究員 Andrew MacKenzie

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本研究の目的は大変に興味深いものであり、ニュージーランド側で調整した海産資源抽出物について、日本側がその成分及び機能性を評価するという役割分担は明確で、双方が高い技術を有しており、有効な協力体制が取られている。また、ニュージーランド産ミドリイガイ抽出物に含まれるフラン脂肪酸の解明やリパーゼ活性に及ぼす影響等、一定の研究成果が得られている。

今回は *in vivo* の実験系にて有用性を示すには至らなかった。スクリーニングの段階を脱し、得られた成分の *in vivo* 等での研究に進むことができれば、さらにより共同研究となったであろう。本課題で得られた成果及び連携体制を生かして、今後の研究展開の方向性をより明確にしていくべきである。

本研究は極めて良好な協力・連携体制が取られているが、明確な機能性を示す結果や新規性の高い結果等、インパクトのある成果は得られておらず、波及効果が見込まれる段階に至っていないのは、残念に思われる。今後の研究により、機能性食品素材としての海産脂質の有用性を解明することが望まれる。

(2)交流成果の評価について

共同研究に加えて、ワークショップの開催・研究会議への参画等を通じて、両国の若手研究者の交流が進み、将来の両国間の人材交流・研究発展につながる可能性が期待できる。また、連名での学会発表やプロシーディングス掲載があることも評価できる。

双方の交流が単なる研究成果の意見交換にとどまらず、お互いの技術の交流・共有に一部発展しているが、さらに深めた形で進められると双方の技術力のレベルアップにもつながり、有益であると思う。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

機能性脂質の産業的有用性を示し、新しい機能性食品の開発等につなげていくために、これまで構築した両国間の研究ネットワークを生かす中で、今後、産業界からの研究体制への参画を考慮する等、さらなる展開に期待する。